

## 令和6年度第1回教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和6年9月24日（火） 15:05～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）  
辻内 敬子（女性鍼灸師フォーラム 代表）  
寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）  
野村 森太郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）  
藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役社長、本校校友会 会長）

学校 岸本 光正（校長）  
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）  
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）  
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）  
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）

事務局 中島 桂吾（事務部次長）  
中尾 好伸（教学支援グループ マネージャー）  
相馬 しのぶ（入試広報グループ 課長代理）  
兼子 啓太郎（教学支援グループ 課長代理）  
小浜 悠樹（キャリア支援グループ グループリーダー）  
木村 元  
原口 徹志（議事録）

以上 17 名

【欠席】 委員 松田 博公（日本伝統鍼灸学科 顧問）  
委員 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）

### 【議題】

#### 1. カリキュラム一部改訂の報告

2025年4月からカリキュラムを一部改定することが報告された。

#### 2. 外部施術所での臨床実習実施に向けた検討

附属施術所でのみ実施している臨床実習を、外部の施術所でも行いたいと考えており外部施術所での臨床実習について、以下2つの観点から検討を行った。

### 議題2 (2)意見交換



貴院・貴施設で実習生の受入を想定した場合、以下の点についてご意見をお願いいたします。

#### 検討① 実習生は何をどこまでさせていただけなのか。

- ・実践的な職業教育の具体的行動について
- ・何年生での外部実習が望ましいか
- ・新人教育の際「これは身に付けておいてほしい」と感じたことがある具体例やエピソードについて

#### 検討② 実習生を受け入れるとしたら、学校で何をどこまで指導しておいてほしいか。

- ・検討①で頂いたご意見を実現させるために、カリキュラム内外で身につけておくべきことは何かについてご意見をいただきたい

## 検討1 実習生は何をどこまでさせていただけなのか。

### 【委員の意見】

- ・実習生自身が一番気になる施術を先生に行ってもらい、実際に体験してほしい。効果を実感し、自分が身につけようとしている技術のすごさを実感してほしい。
- ・独立を考えている実習生に対し、自身が独立開業をした際の、開業から現在までの収支状況など開示している。
- ・監督者のもとで、あはき法の範囲内のことであれば構わない。その観点から、何年生でも外部実習は可能で1年生から受け入れても構わない。

## 検討2 実習生を受け入れるとしたら、学校で何をどこまで指導しておいてほしいか。

### 【委員の意見】

- ・やはりコミュニケーション能力が重要。特に礼儀作法を身に付けておいてほしい
- ・現代医学的な理学検査ができることが最低ライン。  
また、実習前にどういう将来像を描いているか明確にしてきてほしい。  
例えば独立したいのか就職したいのかなどが明確だと、受け入れ側も伝えるべき内容を絞りやすく、結果的に無駄な時間になりにくい。
- ・医療面接ができるようにシミュレーションしてきてほしい。  
患者の話聞く際に圧迫感を与えず、自分を出さず、存在感を消すような立ち振る舞いができるかが大切。
- ・実際の実習では、何もできないから掃除や見ているだけとなってしまう  
学校側からは、実習に参加する生徒は何ができるのかを明確にしてもらえると良い。  
何か一つでもテクニックを身につけてから参加してもらえるとよい。  
しっかりした報連相ができる学生を育て、参加させてほしい

以上

## 令和6年度第1回教育課程編成委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和6年9月26日（木） 15:05～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 田村 嘉悠（有限会社ヒーリング・スポット 代表取締役）  
高橋 功（株式会社SEA Global 取締役副社長）  
宗澤 岳史（株式会社Assatte 代表取締役）

学校 岸本 光正（校長）  
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）  
青木 春美（柔道整復学科 副学科長）  
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）  
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）  
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）

事務局 中島 桂吾（事務部次長）  
中尾 好伸（教学支援グループ マネージャー）  
兼子 啓太郎（教学支援グループ 課長代理）  
小浜 悠樹（キャリア支援グループ 係長）  
木村 元  
原口 徹志（議事録）

以上 15 名

【欠席】 委員 小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）  
委員 加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）

### 【議題】

臨床実習をより実践的なものにするための検討

## 1 議題についての説明



### 議題 「臨床実習をより実践的なものにするための検討」

#### 検討① 臨床実習の場で学生がどこまで参加していけるか。

現状の見学型実習を参加型実習に変化させていきたい。臨床実習の場で学生が実践的な職業教育を受けるためのご意見をいただきたい。

#### 検討② カリキュラム内外で何を身に付けておく必要があるか。

検討①で頂いたご意見を実現させるために、カリキュラム内外で身に付けておくべきことは何かについてご意見をいただきたい。



## 検討① 臨床実習の場で学生がどこまで参加していけるか

### 【委員からの意見】

- ・ 3年生の臨床実習がないのはなぜか。
  - ⇒就職決定時期が早まっており、国試の準備と臨床実習の両立が難しい学生がいる。
- ・ 1年生の臨床実習の80%が内部実習なのはなぜか。
  - ⇒1年のGW明けから実施しているが、まずは慣れてもらうため学校附属の施術所での実習としている。
- ・ 現場に来ている学生からはコミュニケーションの大切さをよく耳にする参加型から実践型に変えるには現行の時間設定では難しい。
- ・ (教職員より) 長期間、同じ場所で受け入れる場合、学生にどんな実習を行うか。
  - ⇒学校によっては1日8時間で実習を受け入れる場合もある。休憩時間を現場スタッフと共有する機会が生まれ、学生の緊張感がほぐれる。緊張がほぐれると、その後の動きの質も変わる。
- ・ 新卒向けのインターンシップにおいては、説明会型よりも体感型が増えている。体験型はアルバイトのように現場に入り込んで業務を体験してもらう。体験先が現場の場合は実際の業務の模擬体験となる場合が多い。本部系だと、会社の今後のビジネス戦略についてのディスカッションが多い。人間関係におけるコミュニケーションを体験してもらうものも多い。
- ・ (教職員より) インターンシップに送り出す前に、学校側が学生に身につけさせておくべきことは。
  - ⇒礼儀作法や可愛げ(=思わず育てたい、教えたいと思わせる素養)が重要。育成型が主流だからこそ、指導したいと思わせるような姿勢が重要。
- ・ (教職員より) 教育現場で「可愛げ」のある人材を育てるポイントは。
  - ⇒例えば、その仕事を本気でやりたいと思って行動している人は、自然と高いモチベーションを持ち、学びたいと感じさせる行動・態度をするはず将来につながるモチベーションの源泉を個人別に見出してやるのが重要。
- ・ 臨床実習について、2段階あっても良いとおもう。
  - 中学生の職場体験受け入れ時に行っているが、実習開始前に学生が現場を訪問し、スタッフに質疑応答をする場を作っている。学生はおそらく「人」をみており、この機会をつくることで“自分たちが選んで実習に行く”ことになるのではないか。
- ・ フロリダ研修・アジア研修について、予め決められたプログラムよりも、もっとアクティブに参加する工夫ができないか。
  - スキル・モチベーションが高くない生徒が研修を考える場合、選択肢を与え、選び取らせるなどの工夫も必要。

## 検討② カリキュラム内外で何を身につけておく必要があるか

- ・一般的な社会人として必要なこと（礼儀・報連相など）。
- ・卒業後のことをどう考えているかのビジョンを持つておく。  
柔道整復師になった後、仕事と自分の人生をどう考えているのか。
- ・自分の会社に入社した人材には「子」から「個」になりなさいと伝えている。  
「個」になるにあたって何が変わるのか、ないが必要なのかを考え、考えさせる。
- ・基礎的なビジネスマナーについて KEISHIN.net に掲載してもよいのでは。
- ・「ズルい」「気持ちが良いくない」人材は採用しない。  
それは、スポーツビジネスはヒューマンビジネスであるという理念があるから。
- ・プロアスリートを見ていると、可愛げがない選手は実は多い。  
そんな人たちがスポーツイベントなどで子供と触れ合うときは笑顔になる。
- ・（教職員より）本校から実習で参加している学生の印象は。  
⇒日本医専の生徒に限らず、緊張がしており、いかに場に慣れてもらうかを考えている。  
臨床自習に来てもらったからには先達として背中を見せ、この仕事がいかに楽しいか。  
見せること・知ってもらうことを目指している。
- ・（教職員より）臨床実習先と共に創り上げていく実習にしていると、  
従来の型にはまらない、どこにもない楽しく生き生きとしたプログラムができる。

以上

## 令和6年度第2回教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和6年1月28日（火） 15:00～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）  
辻内 敬子（女性鍼灸師フォーラム 代表）  
寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）  
野村 森太郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）  
前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）  
藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役社長、本校校友会 会長）

学校 岸本 光正（校長）  
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）  
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）  
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）  
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）

事務局 中島 桂吾（事務部次長）  
中尾 好伸（教学支援グループ マネージャー）  
森山 晃義（入試広報グループ マネージャー）  
相馬 しのぶ（入試広報グループ 課長代理）  
兼子 啓太郎（教学支援グループ 課長代理）  
木村 元  
楠本 剛浩（議事録）

以上 18 名

【欠席】 委員 松田 博公（日本伝統鍼灸学会 顧問）

### 【議題】 「産学連携」による企画・開発と教育のアップデート

#### ○内容

- (1) 産学連携の想定パターン
  - ・求められる人材を育成するための教育課程・内容の編成
  - ・インターン（現場実習）
  - ・人材が行き来する（現場も学校も常にアップデートし合う関係）
  - ・商品開発・企画
- (2) 産学連携による教育課程・内容の企画・開発・アップデートとして目指す姿
  - ・目標設定とそのための調査
    - 企業・業界で求められている人材と学校が育成する人材とのギャップが無い状態にする
  - ・学習成果の可視化
    - 実施した教育により何がどの程度身に付いたか学修成果を可視化して、教育活動をアップデート

#### ○委員からの質問・意見

##### (1) 産学連携の事例・実績紹介

- 企業・業団体や学会と学校とが連携して企画・実施したことがある実績・事例
  - ・大阪府鍼灸マッサージ師会・関西医療大学・病院

婦人科鍼灸領域における共同研究

- ・日本鍼灸師会

若手鍼灸師・鍼灸学生のための「繋がる」鍼灸フェス

○連携することでの企業側のメリット

- ・新たな視点での意見を聞くことができる、新たな風が吹く
- ・人的リソースを活用できる
- ・学生と関わることによる職員の成長（人材育成）
- ・学校と繋がることにより最新の技術・知識に触れられる

(2) 学校側に求めること（連携として行ってほしいこと）

- ・ SNS でどのように集客するか学生と一緒に考える（SNS 活用マーケ）  
配信頻度、内容、コンテンツ  
→稼げる医療従事者（学生が就職・開業したときも同じ）
- ・ 効果の可視化・数値化（研究室的なところを設けて共同研究）  
Ex) 鍼灸治療による血流、肌の温度  
学校の機器・設備を用いたり、学生に被検者として協力いただいたりなど  
→共同研究・共同リリースして出た結果を共同プロモーション
- ・ エントリーマネジメント  
なぜ、どうなりたいが明確な学生が入学する学校になる  
何となく入学した学生と目的が明確な学生とでは社会に出てからの活躍度に  
差が生じるように感じている
- ・ 講師派遣  
企業の新入職員研修に教員派遣  
（新卒者の研修に外部講師派遣を取り入れ始めた）
- ・ 授業の内容・教育内容の共同開発
- ・ 実習と学びの幅を拡大  
治療院だけでなく接客業やサービス業を含む多様な実習先を検討  
経営ノウハウやマーケティングなど、現場で活かせるスキルの教育を強化
- ・ 学生の主体性育成  
ワークショップやイベントでの学生主体の取り組みを推進し、目標達成を  
実感できる仕組みを整備

以上

## 令和6年度第2回教育課程編成委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和6年1月30日（火） 15:00～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 田村 嘉悠（有限会社ヒーリング・スポット 代表取締役）  
高橋 功（株式会社 SEA Global 取締役副社長）  
宗澤 岳史（株式会社 Assatte 代表取締役）  
加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）  
小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）

学校 岸本 光正（校長）  
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）  
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）  
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）  
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）  
青木 春美（柔道整復学科 副学科長）

事務局 中島 桂吾（事務部次長）  
中尾 好伸（教学支援グループ マネージャー）  
森山 晃義（入試広報グループ マネージャー）  
沢田 秀樹（入試広報グループ 課長代理）  
兼子 啓太郎（教学支援グループ 課長代理）  
木村 元  
楠本 剛浩（議事録）

以上 18 名

### 【議題】

#### 1. （報告）参加型の臨床実習実現に向けた進捗報告（前回委員会の検討事項の進捗）

参加型の臨床実習についての進捗が報告された。



### 総括

#### ①外部接骨院実習

- ・指導者と**コミュニケーション**を図る
- ・知識のアウトプット
- ・体験を増やし臨床を学ぶ

#### ②トレーナー実習（学内部活動）

- ・指導者と**コミュニケーション**を図る
- ・実技のアウトプット
- ・実践を増やし現場を学ぶ



GOAL

主体的な行動を促す

柔道整復師としての  
専門知識・技術の修得

#### ○委員からの意見

- ・実習時に学生がどの程度の手技を習得しているのかを共有すべき。

- 学習成果の可視化を進め、実習前に学生の情報を共有しておく必要がある。
- ・整骨院・接骨院でアルバイトしている学生の減少が見受けられる。  
実技授業で実習に必要な技術(触診や検査法など)を事前に教えておく  
と良い。
- ・予診の授業を学校で実施しているか確認が必要。  
施術能力よりもコミュニケーション能力で個々の差が出やすい。  
実習の中で、技術だけでなくコミュニケーションの強化も目的とする。
- ・実習の中で学生のコミュニケーション能力向上の研修を行っているか確認が  
必要。  
患者や実習先のスタッフとのコミュニケーションにも着目すべき。
- ・様々な治療院の取り組みを取り入れて、学校のスタンダードとなる臨床実習を  
作り上げていくことが重要。

## 2. (検討) 「産学連携」による企画・開発と教育のアップデート

### ○内容

- (1) 産学連携の想定パターン
  - ・求められる人材を育成するための教育課程・内容の編成
  - ・インターン（現場実習）
  - ・人材が行き来する(現場も学校も常にアップデートし合う関係)
  - ・商品開発・企画
- (2) 産学連携による教育課程・内容の企画・開発・アップデートとして目指す姿
  - ・目標設定とそのための調査  
企業・業界で求められている人材と学校が育成する人材とのギャップが無い  
状態にする
  - ・学習成果の可視化  
実施した教育により何がどの程度身に付いたか学修成果を可視化して、  
教育活動をアップデート

### ○委員からの質問・意見

#### (1)産学連携の事例・実績紹介

- スポーツ産業との連携（メディカル・ヘルスケア分野）の検討が可能ではないか。
  - ・スタジアム等のハードは整ってきているが、ソフトはこれからであり、スタジアム  
でも試合のない日にお金を生む仕組みが必要（ビジネスチャンス）
  - ・学生だけでなく教員の派遣を行い、教育能力を養うことも視野に入れる。
- 「産学連携」において、具体的なゴール設定が必要。  
ゴールによって規模感やどんな企業と提携するかが変わる  
マネタイズが重要なのか 企業のマネタイズに貢献するのか（関係構築メイン）
  - 日本医専そのものの価値の向上（現場から肌で身に付けられる学校、肌で触れ  
て教職員が常にアップデートする）
  - ヘルスケア領域における課題解決（社会／企業／個人）
- 最終的に、柔道整復師の活躍のフィールドをいかに作っていくかが重要。
  - ・活躍の場を作っていくことを、学校発でやることは今までにない取り組みとなる
  - ・学校という枠組みを超え、ヘルスケアの概念の中でいかに実行していくか検討すべき
  - ・エキスパートを育て、活躍の場を作ることの両方を学校がやることに意義がある
- 学校の外からの情報収集をより充実させるべき。
  - ・提携先の現状の課題や、どういう人に来てほしいのかなどを掴む必要がある。
  - ・業界というものに対して、課題を整理し、学校として何ができるのか考える。

## (2)学校側に求めること（連携として行ってほしいこと）

○学生のうちから物理療法、機械に対する知識を得られるような機会を設けてはどうか  
Ex) 医療機のメーカー等に機械の性能や効果、使い方を紹介してもらう  
学生のうちから知識を深めておくことで、卒業後の治療技術向上が見込める。

○治療院ごとの技法の違いを認識し、適応力を養うことが重要。

・学生が治療院を逆評価することで、実習先にもメリットが生まれる。

○学生からのフィードバック（雰囲気や指導方法など）を積極的に取り入れるべき。

・学生が見てくるべき点を事前に決めておく。

・実習後のレポートを治療院にも共有することが重要。

○業界に対しての希望・展望・課題について、どのように捉えているか整理することが求められる。

以上